

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300013		
法人名	社会福祉法人 六親福祉会		
事業所名	グループホーム牛津あしはらの園		
所在地	佐賀県小城市牛津町牛津80-1		
自己評価作成日	平成22年3月13日	評価結果市町村受理日	平成22年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成22年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者・ご家族には満足して頂けるように、その時々々の状態状況に応じて、臨機応変・柔軟に対応している。施設直員は明るく楽しい笑顔あふれるホームを目指して取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の理念にあるとおり、物理的にも職員の皆さんの対応にも「楽しさ」「明るさ」が見受けられた。利用者のみならず家族とのコミュニケーション量も多く心掛け、その意向を反映しようとカンファレンスを重ねられている点は印象強かった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に暮らし、地域に信頼され、地域に満足される」の基本理念のもと、楽しく笑顔あふれるホームを目指している。	法人理念を基に、独自の方針「明るく楽しく笑顔あふれる」を掲げ、楽しく生活が出来るように支援されている。また、方針をカードにして職員の名札の裏に入れ、常に理念を意識させるようにされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に入会し、回覧版も回ってくる。区長・民生委員の協力もあり、ホームでの行事への参加や地域行事への参加も行っている。	施設の駐車場で近所の子供が自転車の練習をしたり、花壇の花植えを近所の方と行う等地域の組織のみならず、個人とのおつきあいも実施されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、各委員との意見交換を行っている。そこでの意見を取り入れ、広報活動や施設見学会を行っている。	3～4ヶ月に1回の開催で、委員の意見を聞くことと、施設の状況(利用状況、行事等)報告をされている。	2ヵ月に1回の開催を努力されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者は運営推進会議にも参加されており、事業所の実情やサービスについての助言を頂きながら協力して頂いている。	行政とは主として法人がその対応を行っており、同施設では、会議以外での関わりが薄い。特に地域包括支援センターとの関わりをもたれていない。	積極的に地域包括支援センターへ出向き、PRの協力を求めていくなど連携の強化に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳と主体性を尊重し、拘束を安易に正当化することなく、職員一人一人が精神的被害を理解し拘束廃止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に努めている。	不機嫌になったり、帰宅要求があったりする時は、サインを把握し、職員が付き添う等の対応をされている。法人内の研修で知識を深め、施設での報告会で周知し、介護中の些細な動作も留意して、そのつどカンファレンスを設けられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内ではより良いサービスを提供し、安心安全な状況の中で快適な生活をして頂くことを最優先として、ご利用者には身体的精神的な異常がないか注意するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結改定解約時には、契約書と重要事項説明書にて十分な説明を行い、理解納得をされた上で署名捺印をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出入り口の所にご意見箱を設けているが、投書がほとんどないので、今後定期的なアンケート等を実施し、運営に活かしていきたい。	意見箱の活用がほとんどないものの、面会等でお見えになられた際にはそのつど話をする機会を設けるといった取組をされている。	意見・要望を言いやすい環境作りとして、現行の家族会の際にご家族同士だけで話しをする時間を設けたり、工夫されることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い職員より意見を出してもらい、業務改善等に反映させている。	ミーティングにおいて職員は自由に発言されており、その意見を業務改善にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施しており職員個々の努力実績勤務状況等を把握し個人面談を行いながら、働きやすい職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修には参加しているが、法人外での研修が十分に行われていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人的な交流はあるが、事業所としての取り組みは行われていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	紹介者からの情報や在宅・病院等を訪問し契約前の段階でサービスの種類・内容等を説明し、本人家族の要望等を聞き、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の優先サービスを考え、臨機応変に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	豆のさやとりや、洗たく物たたみなどを一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の声かけをしたり、誕生日を一緒にお祝いしたり、ご家族と共に過ごせる様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会が少ない時や、ご本人の希望で御家族に電話をし、話して頂いたり、面会に来ていただいたりしている。	家族の面会が減少した際に電話で話せるよう配慮したり、知人の面会を大切にされている。「馴染みの場」との関係継続が少ない。	例えば、以前利用していた床屋に行く等馴染みの場との関係継続の支援が望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用時には気が合う方、そうでない方等、ご利用者同士の関係が損なわれないように席の位置等を配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所先や入院先を訪問したり、何かある時は相談に応じる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用時には、ご本人の思い等を聞きご本人の意向に沿うようにしているが、ご家族との関係で困難な時もある。	日々のミニカンファレンスにおいて、個人ごとの意向等の把握を重ね、毎月の全体ミーティングにおいて全職員の合意をもって決定・確認・調整等の作業を行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションを通じて把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意見を聞き、ミーティング等で話し合いながら行うようにしている。	ご家族の意向は面会時に聴取して記録されている。その記録を基にミーティングを行い計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングにて情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望を取り入れながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の催しや保健センターの足湯など、楽しんで参加される様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用時の様子や体調を見ながら、特変がある時は、協力医の往診や受診を行っている。2週間に1回は、定期的な往診が、行われている。	全ての利用者に対し、利用者の希望に合わせて通院支援を実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時には看護師に連絡し指示を仰ぎ、協力医への受診や往診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院を訪問し情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っていない。	既に、方針・様式は整備されている。しかし、早い段階から、本人・家族等と話し合いを行い、十分に説明しながら方針を共有することはなされていない。	早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、十分に説明しながら方針を共有することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルでの伝達はしているが、実際の訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行っている。地域の消防団や区長にも協力を依頼している。	年2回の避難訓練は地元消防団の協力を得ながら行われている。地域で配布されている地域防災安心・安全マップを備え、消防設備の点検も年1回実施されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	より良いサービスを提供し快適な生活をして頂けるように、一人一人の人格を尊重しプライバシーに注意しながら行うようにしている。	話を聴いて、受容を心掛け、利用者の求めにあわせるようにされている。やさしい声のトーンや高圧的にならないようになどの配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はそれぞれに組んでいるが、一人ひとりのその日の様子に応じて、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃の着がえの時の服選びや、お出かけの時の服や帽子選びなど、自分でできる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等は職員が行っているが、ご利用者の要望に沿うようにしている。	利用者の重度化から、役割としての準備や片付けは行うことがないが、利用者からの希望があれば、職員と一緒に準備や片づけをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて量や形状等を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日行っている。要望があれば歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に合わせて検討を行い支援している。	記録により排泄パターンの把握に努め、利用者別に時間ごとの声掛け・誘導を実施されている。また、様子を観察しトイレに行きたいようしぐさが見られた際には随時対応されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には運動を促したり、乳製品を提供したりして様子を見ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂にはゆっくりと入れるように脱衣室で一緒ににならないように配慮している。	午前中に1人ずつ入浴されている。2グループに分け、1日おきの入浴が基本であるが、希望により毎日の入浴やシャワー浴の希望にも対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況で居室で休んだり、場所を変えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、全て施設で管理しており、状態の変化に応じて、主治医又は協力医に指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割等はないが、おやつやレクでは、ご利用者の好みを理解し提供するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小規模多機能ホームの方と一緒にバスハイク等に出かけ、気分転換を行っている。	年4回花見や観劇等の外出の行事を企画されている。散歩・野菜の収穫等敷地内の外出は職員が付き添いをされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族が管理されており、必要なものがあれば、施設より立て替えをし、請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて行事を行い、掲示物や飾り等を行っている。	広いリビングで、大変日当たりがよく、明るい雰囲気を作られ、ひな壇など季節ごとの装飾が施されている。利用者は自主的に部屋から出て、主としてリビングで過ごされるような居心地の良い環境を作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席では気が合う方と同席になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきて頂いたり、使用して頂いている。	畳部屋の準備や、仏壇の持込がなされている。この他、湯たんぽ・毛布・たんす等、使い慣れた物を使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人のペースに合わせて建物内は自由に移動したり休んだりされている。		